

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着した介護サービスの運営方針や明るさ・やさしさ・おらかさの理念の基、管理者、職員が行動指針を確認共有しながら実践に取り組んでいる	法人の理念に基づいて、毎朝の引継の時にスタッフで確認し合っている。毎日何度も目にする場所にも掲示して常に意識したケアを行なっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ふれあい喫茶、ボランティアとの交流、夏祭りの実施等地域の一員として繋がりを深めている	地域住民の方やボランティアの訪問が頻繁に行なわれている。夏祭り等を通じて地域の方との交流を深めている。	ホームの入居者が地域の行事等に出席して行くことが出来たら。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティア様を受け入れ利用者様との交流を図り認知症の方々への対応をご理解頂き、今後ご協力頂けるよう呼び掛けている		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催しており、入居者様、家族様、あんしんすこやかセンターの職員様、民生委員様、知見を有する方等の参加により多くの情報やご意見を頂いたり交換する機会としサービス向上に活かしている	多方面のメンバーの方々の出席により、報告、情報交換や提言が行なわれて、ホームの質の向上に反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	区域に於いては、グループホーム連絡会等の場における連携や利用者様の諸手続き等を通じて行き来する機会を持っています	西区グループホーム連絡会には必ず出席し、区担当者とは利用者へのサービス向上にむけた相談や打合せを行ない、他のホームと連携もはかっている。	年間行事の際には、積極的に多方面の方を招待する事への意欲を持つ。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束廃止に向けた基礎的調査報告書」等を資料にケア会議を行い、出来る限り廃止に向け努力しています	日中は施錠をせず、センサーとチャイムで対応している。ケア会議を定期的に関き身体拘束の弊害、人権保護を認識し合っている。	事例を挙げて検討する方向へ。
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止については、外部研修、内部研修等を通じ意識は向上しています。今後も虐待が見過ごされる事がない様防止に努める	内外の研修を通じ、身体拘束にも関連づけながら虐待防止に向けて努力している。	介護者の言動を常に振り返って意識を高める。

自己	者 第 三	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	冊子、資料の回覧や成年後見制度の外部研修を受け理解を深めています	管理者や職員は外部研修によって、制度の理解を深め、ニーズのある人に情報を提供している。	冊子等を家族への通信の際に届けるようにする。
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご本人やご家族の意見等を充分にお伺いし、また説明させて頂きご理解を頂く様にしています	契約時には本人やご家族の不安や疑問点を尋ね意向を聴き、十分な説明をした上で、納得されたことで契約を結んでいる。家族の状況も把握できている。	
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様には日常の声掛け等を通じて意思疎通を図り、又苦情相談の受け付け窓口を重要事項説明書に明記していつでも相談できる様にし、運営推進会議で反映させている	家族へは、定期的な便りをして要望を把握している。苦情相談窓口を設け、運営推進協議会でも積極的に要望を聴く機会を持ち、運営へつなげている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等の定期的な会議の場で職員の意見を十分に聞ける機会を設けています	職員は管理者へ、日常的に意見を伝えることができる雰囲気がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	急な欠勤や状況の変化に柔軟に対応できるよう主任を中心に勤務の調整を行っています。資格取得等については待遇面で反映し意欲の向上を図っている		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	認知症介護実践者研修、市民救命士講習等の積極的な受講、グループホーム連絡会の持ち帰り報告、認知症サポーター研修受講等に取り組み向上を図っている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議やサークル活動を通じ地域の他施設職員様等との交流の場を作りサービスの質の向上につなげている		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接時に得た情報等を踏まえながら、特に入居初日は十分な対応をして不安が解消していくようまた求めて居られる事が実現していける様努力しています		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初回相談からご入居に至るまでご家族様等の不安、ニーズをよく聞いて受け止め、信頼関係の構築に努めています		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初回相談時のニーズを見極め当ホームへのご入居が本当にご本人にとって適切かどうかも含めた対応に努めています		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様と職員は日々の暮らしと喜怒哀楽を共にし、人生の先輩である利用者様から学び支え合う関係を築いています		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族のご理解ご協力なしにはグループホームでのケアは成り立たないといっても過言ではなく、ホームとご家族はご本人を共に支え合う関係であるよう努めています		
20	(11)		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族ご親族はもとよりご友人等との関係性が継続しむしろこれまでよりも良い関係が形成される様支援に努めています	今までの人間関係について把握し、友人や関わりある人の来訪には、家族の協力を得ながら支援している。	家族の協力も得て、里帰りやお墓まいり企画等も期待する。
21			○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様同士の人間関係を十分に把握し、誰も孤立する事無く利用者様同士が良い関わりが持てる様、またトラブルが発生しない様により良い関係性の維持に努めています		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22			○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	継続的な関わりを必要とされている方やご家族様に対してはいつでも相談頂けるようご案内すると共に折に触れお便りさせて頂いています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(12)		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご入居者様の思いや希望の把握に努めています。困難な場合でもできる限り希望に添えるように検討し近づけるように努力しています	表現困難な人に対しても、日常動作の中から思いを組み取る努力をしている。	
24			○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居相談時にご本人やご家族様から生活歴や暮らし方等について充分お聴きし把握してホームでの生活に活かせる様に努めています		
25			○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりの一日の過ごし方心身状態、有する力、ホームでの人間関係等の現状を総合的に把握するよう務めています。ケアプランにも反映するようにしています		
26	(13)		○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプランの定期的な見直しの際にはご本人やご家族様の新たな要望を確認しモニタリング会議等を通して、又緊急案件が有る場合はその都度会議を行い作成している	毎月のモニタリング、3ヶ月毎のケアプラン見直しをきちんと行ない、状況の変化があれば速やかに計画を修正し、家族への了解を求めている。	
27			○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきはすべて管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に情報を共有し実践や介護計画見直しに活かしている		
28			○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の体調の変化やご家族様の状態の変化があれば、随時ご利用者様ご家族様職員間で話し合い見直しを行うと共に必要に応じ他サービスとの連携も含めて、多機能化に取り組んでいる		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29			○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月1回のふれあい喫茶、地域行事に参加させて頂く等御一人おひとりが安全で豊かに暮らして頂けるよう支援している		
30	(14)		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人であり、連携している病院も有り通常月2回の往診等を行っている。また入居前からのかかりつけ医等を主治医としたい旨のご要望等には必ず対応し、希望や必要があればすぐに受診できるよう職員が支援している。	近隣からの入居者は少ない。母体である医療法人の病院より、月2回の往診(家族の同意あり)、緊急時は病院へ連れて行く。入居前からのかかりつけ医の往診にも対応している。	
31			○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の様子、ケアの実践、結果、気づきはすべて管理日誌、カルテに詳細に記録すると共に情報を共有し実践や介護計画見直しに活かしている		
32	(15)		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者とは密に連絡を取り情報交換に努め早期に退院できるよう支援している	病院、家族と密接に連携し、退院時のカンファレンスに立ち合い、スムーズな退院を支援している。	
33	(16)		○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族様には普段から面会時話し合い、電話等により密に連絡を取り終末期に向けたホームの意向を適時説明し、ご家族の希望等も伺い共有できている	普段から利用者の心身の状況変化に対応して、家族や医療機関との話し合いが行なわれている。	
34			○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	医療的な対応が出来るわけではないが、急変時等にはすべての職員が初期対応を取りホーム長、主任への連絡、必要であれば医療機関へ即座に連絡出来対応できる様にしている		
35	(17)		○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と共に避難訓練等を実施するなどして避難する方法は周知できており、救急救命の研修にも多数参加しています。また大災害に備え食糧等も3日分程度の備蓄を用意している	年1回の避難訓練を行ない、救急救命の研修へ参加し、スタッフの意識も高い。敷地内のケアハウスとの連携も密。食糧・水の備蓄もある。	災害時、緊急時のスタッフの動員がスムーズにできるよう体制を考える。

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	書類等の個人情報は、職員室に保管しており職員以外は入ることが出来ず、利用者様に対する声かけは丁寧に行っており、プライバシーには十分配慮している	日常での利用者への対応や声かけを大切にしており、一人一人の尊厳を守り続けることをいつも職員は意識している。記録物等個人情報に関しては、施錠できる棚に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できる様言葉掛けを行い思いを聞き出せる様支援している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	買い物、散歩等は利用者様の意向を確認しながら体調に留意し見守りを大切にした支援を行っている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	おひとりで選択できる方や職員の援助が必要な方それぞれのご希望に添える様、整理整頓出来る様支援しており、身だしなみについては1～2か月に一度の訪問理美容等でも対応し、他の理美容院等のご利用も希望に応じている		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる事に興味のある方やそうでない方も楽しみを持って食事が出来る様に味付けや彩を大きすぎる物は刻む等の工夫をし、体調やその日の気分に合わせて準備から片付けまで負担のない範囲で職員と一緒にやっている	食事は、併設のケアハウス厨房へ委託し、週2回は自家調理を行ない、入居者の力や体調やその日の気分に応じて、食事準備や片づけを手伝ってもらっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者一人ひとりの摂取量はカロリー、水分量、等栄養バランスを1日を通して記録し把握している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後には自立支援の為、又入居者様の力を引き出せるようご自分で磨いて頂き、その後職員が磨き残しがないか口腔内チェックを行い日常的に清潔を保てるように支援している		

自己	者第三	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	リハビリパンツ、おむつを出来る限り使用しないで済むようにそれぞれの排泄パターンを把握し、トイレでの排泄等自立に向けた支援を行っている	利用者の心身状態の段階に応じて、排泄ケアが行なわれている。トイレが各室の隣に設けられていて、トイレ誘導がスムーズに行なえる。	一人一人の排便の管理をもっと正確に把握していく。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取や適度の運動をする事で排便を促し正常排便できる様努めている。排泄チェック表に個々の排泄を記録し一定期間排泄がない場合は主治医から処方されている便秘薬を服用する		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回程度の入浴を行っているが、体調に合わせてまた希望に合わせてその都度、日時の変更等も柔軟に行っている	週2回、曜日を決め、体調にあわせて入浴しているが、希望があれば日時等の変更に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの睡眠のリズムを把握し気持ちよく休んで頂き又年齢や体調に合わせて昼間の睡眠も支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は入居者が服用する薬の目的や副作用、用法、用量を周知しており医師の指示通り服薬できる様支援し、また症状の変化を医師に伝達確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の持つ得意分野を発揮して頂けるよう努め活力を引き出すよう支援し、調理、家事、コーラス、社交ダンス、折り紙会、傾聴ボランティア、踊り等ボランティアの協力で活気ある日常を過ごせている		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩などの外出は気分転換になると捉え、可能な限り出掛けられるようにしている。ホームの広い敷地内や隣接する公園等を散歩し地域の会おう方々と会話出来る関係が築けている	敷地内が広いので、日常的に散歩している。隣接する公園で地域の方との出会いで気分転換を得られている。隣接のケアハウスとの付き合いもある。	利用者の周辺症状の安定を図る為にも、ご家族の協力やボランティアの協力を求め、外出を援助してもらう。

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50			○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様が金銭管理が出来ない場合は職員が記帳管理し、買い物が可能の方は其の都度ご自身でお支払いして頂く等の支援をしています		
51			○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人から電話の要望があれば家族様の了解を得適切に支援できる様にしています		
52	(23)		○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は音楽が静かに流れ季節の花や利用者様が作成された作品を飾るなど居心地良く過ごせるよう工夫している。又リビングはダンスや踊りを踊るスペースに早変わりする	共用空間は音楽が流れ、季節の花等を飾ることで利用者の気持の安定につなげている。リビング・ダイニングは清潔でゆったりとした落ち着いた環境である。	リビング・ダイニングが広いので、グループでくつろげるコーナーを設けては。
53			○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い共用空間は食堂部分と利用者様、来客者等がゆっくりとくつろげるリビングルームに分かれている		
54	(24)		○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使いなれた家具、仏壇、生活用品を居室へ持ち込んで頂き利用者様のご自宅で過ごされていた時のように居心地良く過ごせる様に配慮している	清潔な居室である。利用者一人一人の今まで暮らし、住み慣れた環境をできるだけ継続出来るように配慮している。自宅から持ち込まれたベッド仏壇を見受けた。	
55			○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全を重視しつつも「できる事」「わかること」が生かされる様手伝いすぎない努力をしている。特に「安全の確保」と「自立支援」のバランスを欠くような支援が見受けられた様な場合には職員間で十分な会議を持つようにしている		